

夏越の祓・茅の輪くぐり



もうすぐ夏至。ついこの間、お正月を祝ったばかりのような気がするのですが、時の経つのは本当に早いですね。それも、感覚的には、加速度的に早くなっているような気がします。この分だと、あっという間に師走から冬至を迎えることになってしまうのでしょうか。日々の一刻、一刻を、大切にしたいと思う今日この頃です。

この時期の京都の神社の（全国的にもそのようですが）伝統行事に「夏越の祓（なごしのはらえ）」という神事があります。写真のように、境内に、注連縄と同じ材料の茅（カヤ）で作った大きな輪を設置し、それを参詣者が形式に則って潜ることで、半年間の厄を払い、残り半年の無病息災と幸運を願う、というものです。実は私、京都に長く住んでいながら、まだ一度も行ったことがないのですが、今年は心機一転、参加してみようと思っています。この通信の後段に書かれていますように、夏越の祓には水無月という季節限定のお菓子も欠かせません。これを食べるのもこの時期の楽しみの一つであります。

さて、6月の歌会結果です。一席は玉虫さん、高級老人ホームの居住者の複雑な心のゆらぎを、静かな筆致で描かれました。二席には青藍さん、小倉さん、いぶやんの3首が並び、3席には西村康則さん、HIKARIKOさん2首が並びました（歌の内容紹介は割愛）。

7月6日実施の七夕歌会の申し込み受け付けは締め切りとなりましたが、お陰様で23名の方がご参加下さることになりました。楽しい歌会にいたすべく、スタッフは準備を進めております。お楽しみに！（いぶ記）

【317回きんきサロン歌会結果】

1

花束

よりも

私は

一輪の

花

青藍 8点 同2席

2

子供たちの

成長は

自転車の車輪と

ともに

大きくなる

西村康則 7点 同3席

3

芦屋五行歌会記念歌集

「葦の葉」2010年から2020年

三冊並べてみれば

私の足跡ポツポツ

しみじみ

板東和代 4点

4

江戸期の商人町

奈良「今井町」を歩く

商売と住同居

際立つ色合いはなく

質素に建ち並ぶ

黒田節子 3点

5

高級老人ホームで
不満の毎日
東山が見えても
南禅寺が隣でも
心は晴れない

玉虫 9点 1席

6

焼酎をカップにそろりと注ぐ
表面張力
プルルンと
カップはこわばる
「ねえ、早く口づけして」
ほたるいかさだ 4点

7

地域で
久しぶり
こうして火を囲む
太古の昔から
この炎が共生を紡いできた
小倉はじめ 8点 同2席

8

今日を生きる
百歳の母
今日も来てる
番のコウノトリ
二人で眺める朝の風景
HIKARIKO 7点 同3席

9

ナースコール
ドクターハート
エンゼルケア
医療現場の符牒の
優しきセンス
いぶやん 8点 同2席

■ (参加者: 9名)

いぶやん・小倉はじめ・黒田節子・青藍・
玉虫・西村康則・板東和代・HIKARIKO・
ほたるいかさだ

■ 7月は永観堂青もみじ鑑賞と湯豆腐、歌会など七夕歌会イベントです。

■ 8月歌会は8月3日(日)・ウイングス京都で定例の歌会となります。

■ 今年の「五行歌全国大会 in みなとみらい」



■ 日時 2025年10月26日(日)

13:00~20:00

■ 場所 横浜ベイホテル東急

■ 費用 (A: 第1部・第2部) 19,000円
(B: 第1部 歌会のみ) 8,500円

■ 締切 7月31日(木)

本誌6月号に案内が記載されており、見ておられると思いますが、事情が許せば参加いかがでしょうかの再度のご案内をさせていただきました。前向きにご検討ください。宿泊も各自適当な所を予約してくださいとの事です。

■ 水無月のお話



水無月は、京都発祥の和菓子で、6月30日の「夏越の祓（なごしのはらえ）」に食べられる伝統的な菓子です。白いういろうの上に、甘く煮た小豆をのせて三角形に切り分けます。

平安時代、宮中では氷を食べて暑気払いをしていましたが、庶民は手に入りにくかったため、氷の代わりに水無月を食べたのが始まりとされています。京都発祥とされていますが、現在は全国のどこででも食べられており、一般化しているそうです。そういう背景もあまり知らないで食べていました。勉強になりました。

(はじめ記)